

性格と笑いの好みの関係性

— 笑いを好む性格及び多様な性格に受け入れられる笑いの存在検証 —

坂東 利哉

本研究では、人が有する性格と笑いの好みにはどのような関係があるのかを、被験者実験を通して明らかにする。またその際、「笑い」の好みを測るものとして「漫才」を用いた。

現在、「笑い」には日常におけるリラックス効果や幸福感の上昇にとどまらず、様々な医学的効果が期待されている。そうしたことから昨今では、高齢者を中心に「笑いヨガ」という健康促進活動が取り入れられている。こうした取り組みが高齢者を中心に行われている背景には、医学的効果が高齢者にのみ期待されているからではなく、「笑い」に接する機会が若年層よりも少ないことが挙げられる。つまり「笑い」による医学的効果はあらゆる人に対して期待されているのである。携帯電話やインターネットの普及により、特に若年層においては人に会わずとも漫才のような「笑い」に接することが可能となった。そうした際、少しでも自分と相性が良い「笑い」を見つけることは、自らの健康に寄与することとなる。

性格と音楽の嗜好との関係性について調べた研究は多く、実際に関係性が示唆されているものも多い。しかし、性格と笑い好みについて調べた研究はなく、両者の関係性は明らかになっていない。

被験者実験を行うにあたり、最終的に日本語版 Sensational-Seeking-Scale, 認知欲求尺度, ユーモア態度尺度, 認知的熟慮性—衝動性尺度という4つの性格診断尺度を用いた。さらに漫才では、語気の強さ、テンポの速さ、言語（関西弁と標準語）、パターン性、会話の延長線性といったネタ中に含まれる要素に着目した。

解析の結果、知的好奇心や探求心の強い性格の人や、日常においてたわいもないことで笑顔になれる人は、全体的に漫才のような笑いを好む傾向がみられた。幅広い性格に受け入れられやすい笑いに関しては、テンポの遅い漫才というものは他の漫才の要素の組み合わせに関係なく、全体的に受け入れられやすい性格の人が少ない傾向がみられた。また5つの要素のうち言語のみが違う組み合わせの漫才であっても受け入れられやすい性格の人の数に一定の差が見受けられた。またこれらの結果と同時に、1つの性格が1つの漫才の要素と1対1に関係しているわけではなく、お互いの組み合わせ方によって好き嫌いが変化することが解析を進めていくうちに明らかになった。

今回の実験及び解析では、幅広い性格の人の受け入れられやすい漫才の特徴を見つけることはできたが、上記でも述べたようにそれらが具体的にどういった性格の組み合わせの持ち主に受け入れられやすいかということまでは明らかにすることができなかった。今後の課題としては、それぞれの組み合わせに着目し性格と笑い（漫才）の好みをより詳細に分析する必要がある。

(指導教員 真栄城 哲也)